

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業改良普及センター

「稲作情報（第13号）」について（送付）.

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第13号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。この情報はホームページ（以下 URL）にも随時公開しています。
<https://www.pref.saga.lg.jp/kiiji00323270/index.html>

杵島農業改良普及センター

検索

1. 気象概況

アメダス観測値（白石）

月	半月	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R2 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R2 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R2 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R2 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R2 (hr)	平年比 (%)
8月	1	27.9	28.0	0.1	33.3	33.3	0.0	24.0	23.7	-0.3	25.3	0.0	0.0	36.6	48.1	131
	2	27.8			33.2			24.0			26.5			35.5		
	3	27.7			32.9			24.0			28.6			33.1		
	4	27.4			32.6			23.8			29.5			31.7		
	5	27.0			32.2			23.2			30.8			31.5		
	6	26.4			31.7			22.6			39.2			37.8		

1) 8月の気温は、平年並みで推移した。また、日照時間は平年比131と多照となった。

2. 情報田生育概況（調査日：8月4日）

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主稈 出葉数L	葉色 SPAD	概 要
夢しずく 6/14移植 武雄市橋町	本年値	86.7	385	12.3	40.7	<ul style="list-style-type: none"> 草丈は平年並み、茎数は平年よりやや多い。(茎数21本/株) 主幹出葉数は平年より0.4葉少ない。(平年より3~4日程度遅い) 葉色は平年より濃い。 幼穂長35mm 葉耳間長 -13cm
	平年値	85.8	372	12.7	34.1	
	平年比	101	103	-0.4	+6.6	
さかびより 6/20移植 武雄市橋町	本年値	68.5	418	11.7	39.2	<ul style="list-style-type: none"> 草丈は平年よりやや低く、茎数は少ない。 主幹出葉数は平年より0.2葉少ない。 葉色は平年より濃い。 節間長3mm
	平年値	70.2	456	11.9	38.8	
	平年比	98	92	-0.2	+0.4	

※夢しずくの平年値はH21~R1の平均値、耕種概要は稲作情報No7参照

※さかびよりの平年値はH21~R1の平均値、耕種概要は稲作情報No9参照

3. 管内の生育状況（8月7日時点）

- 1) セタコシヒカリ：現在、成熟期となっている。
- 2) 夢しずく（山間早植え）：5月下旬移植夢しずくで穂揃期である。

《参考》管内における夢しずく生育状況：8/6 時点

移植時期（市町）	生育ステージ	備考
5/23 移植（北方町）	穂揃期	出穂期 8/1

- 3) 夢しずく（普通期）：現在、幼穂形成期～穂孕期である。移植後の日照不足の影響を受けて、全般的に軟弱徒長ぎみの生育であり、葉色は濃い。

《参考》管内における夢しずく生育状況：8/6 時点

移植時期（市町）	生育ステージ	備考
6/10 移植（白石町）	幼穂形成期～穂孕期	葉耳間長－3 cm

- 4) ヒノヒカリ・さがびより：穂首分化期～幼穂形成期始期である。梅雨明け後の好天により草丈は平年並みから低くなかったものの、全般的に茎数は少ない生育である。

《参考》管内におけるヒノヒカリ・さがびより生育状況：8/7 時点

移植時期（市町）	生育ステージ	備考
さがびより 6/20 移植（武雄市）	幼穂形成期	幼穂長 0.5 mm
ヒノヒカリ 6/25 移植（白石町）	幼穂形成始期	幼穂長 1mm

4. 今後の管理

1) 山間早植え水稻（主に夢しずく）

- ・幼穂形成期から穂揃期にかけては要水量が増加する時期ですが、湛水状態を長く行うと田面がやわらかくなることと根を傷めるので引き続き間断灌水を行う。ただし、穂孕み期から穂揃期は浅水管理に努める。

本年は山間早植え水稻において「いもち病」が確認されているので、発生状況等によっては臨機防除を行う）

2) 夢しずく（普通期）

- 現在、幼穂形成期から穂孕期である。水管理は、1) 山間早植え水稻を参照する。

本年は、初期生育量が十分に確保できずに、幼穂形成期以降草丈が伸長しうっぺいした圃場を散見する。そのような圃場では紋枯病を確認しているため、早期防除に努める。

3) 普通期水稻

- ・本年は移植後の低温日照不足の影響を受けて、すべての品種が初期生育量を確保できず、梅雨明け後に生育が回復している圃場が多い。そのため、まもなく穂肥施用時期を迎えるが、全般的に葉色のさめが平年に比べて緩やかであり、葉色は濃い。

穂肥の施用に際しては、下記の穂肥診断基準に基づいて適期適量施用する。

また、葉色が濃くうっぺいした圃場では「葉いもち病」や「紋枯病」の病斑を確認しているため臨機防除につなげる。

①ヒノヒカリ

- 6月25日頃に移植されたヒノヒカリは、まもなく幼穂形成始期を迎え穂肥施用時期となる。

下記の診断基準により穂肥診断を必ず行い、適期適量の施用につなげる。

【表 ヒノヒカリの穂肥診断基準】

草丈 cm 幼穂形成始期時	葉 色		穂肥施用時期			
	群 落	SPAD	出穂前	幼穂長	穂肥施用量 (N成分)	
80cm以下	淡い	3.0以下	34以下	20～22日	1～2mm	3.0kg/10a
	標準	3.0～3.5	34～38	18～20日	3～5mm	3.0kg/10a
	濃い	3.5～3.8	38～39	16日	5～15mm	2.5kg/10a
	濃い	3.8以上	40以上	15日	15～30mm	1.0kg/10a
80cm以上	淡い	3.0以下	34以下	20～22日	1～2mm	2.5kg/10a
	標準	3.0～3.5	34～38	18～20日	3～5mm	2.5kg/10a
	濃い	3.5以上	38以上	穂肥は施用しない		

③さがびより

穂肥の施用時期は、幼穂長10mmが基準となります。

幼穂長5mm以上になったことを確認してから、下表の診断基準により穂肥を施用してください。

【表 さがびよりの穂肥診断基準】

	幼穂形成始期の 草丈cm	葉 色		幼穂長	出穂前 日数	施用量 N成分kg/10a
		群 落	SPAD			
穂肥診断時	75cm以下 (標準)	2.5以下	33以下	5ミリ	20～18日	2.5kg
		3.0	33-37	10ミリ	18日	2.0kg
		3.5	37-38	15ミリ	16日	1.0kg
		3.8以上	39以上	施用しない		
	75cm～ 80cm	3.0以下	36以下	10ミリ～15ミリ	18～16日	1.5kg
		3.0以上	37以上	施用しない		
80cm以上	施用しない					

(3) 病害虫対策

1) いもち病

- ・葉いもちの発生がみられる圃場では、穂ばらみ期の防除を徹底するとともに、発生が多いと予想される場合（上位3葉に葉いもち病の病斑を確認した時）には穂揃い期にも防除を行う。
薬剤の使用にあたっては、使用時期や回数等の農薬の登録情報に注意する。
- ・圃場内に放置されている補植苗は「いもち病」や「ごま葉枯病」の温床になるため、すみやかに除去する。
- ・いもち病は、葉色が濃い圃場で病斑（進展型病斑）を確認している。
特に、風により茎葉の損傷や稲体の活力低下なども加わっているため、葉いもち発生に注意して観察し進展型病斑が認められれば臨機防除を実施する。
- ・窒素過多は発生を助長するので、適切な肥培管理を行なう。



葉いもち病の病斑
葉色が濃い圃場にて確認

2) ウンカ類

- ・本年は、トビイロウンカの飛来量がここ10年間の中で最も多く、今後、早植え及び普通期水稻で発生が増加し被害を生じる恐れが高まっています。
8月の気温は平年並と予想され、本虫の増殖に好適な条件となっており、被害を生じる恐れが高まってい

ることから、今後の本田防除の適切な実施が極めて重要です。

については、図1 トビイロウンカにおける各世代の発生予測を参考に、圃場ごとの発生状況を確認したうえで防除対策を徹底する。

特に8月盆前後（8月12日～25日の間）には、6月27日飛来虫と7月7日飛来虫の第2世代幼虫の孵化ぞろい期となることから圃場の発生状況を確認して、適期防除につなげる。

なお、トビイロウンカにおける各世代の発生予測は、その後の気温等により若干変わるので、最新データは、佐賀県農業技術防除センターHP等を参照する。

- ・8月4日～7日巡回調査では、前回同様にトリフルメゾピリム剤を使用していない圃場でのトビイロウンカの定着率が高い。（幼虫、成虫の頭数が要防除水準を超えている）

※8月4日週の現地巡回調査では、トリフルメゾピリム剤を使用している圃場の幼虫はすべて老齢。

また、トリフルメゾピリム以外の圃場では、移植時期によって異なるが第1世代成虫（短翅型）や老令幼虫を確認しており、株元は産卵痕があった。

杵島管内におけるウンカ類の払い落とし調査(R2)

25株はらい落とし総数

調査日	セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメビウンカ		備考
	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	
8/3～7							
5月23日移植	0	0	0	0	0	0	夢しずく(北方町) ※トリフルメゾピリム ヘリ防除済
6月10日移植	0	0	8	4	5	0	夢しずく(白石町) ※ピメトロジン(チエス剤)
6月10日移植	3	0	0	1	1	3	夢しずく(江北町) ※トリフルメゾピリム(播種同時)
6月10日移植	0	0	0	1	2	0	夢しずく(江北町) ※トリフルメゾピリム
6月13日移植	1	0	1	0	2	1	夢しずく(江北町) ※トリフルメゾピリム(播種同時)
6月14日移植	0	0	0	0	0	0	夢しずく情報田 ※トリフルメゾピリム ヘリ防除済7/29
6月15日移植	0	0	0	0	0	0	夢しずく(白石町) ※トリフルメゾピリム
6月17日移植	0	0	0	0	0	0	夢しずく(白石町) ※トリフルメゾピリム
6月18日移植	23	5	2	0	6	7	夢しずく(白石町) ※トリフルメゾピリム
6月20日移植	0	0	0	0	0	0	さがびより(武雄市) ※トリフルメゾピリム ヘリ防除済7/29
6月20日移植	13	0	0	0	4	1	さがびより情報田 ※トリフルメゾピリム
6月20日移植	1	1	2	1	0	1	ヒノヒカリ(白石町) ※トリフルメゾピリム
6月25日移植	0	0	0	0	0	0	ヒヨクモチ(白石町) ※不明 防除済(7/30)
6月27日移植	0	0	0	0	0	1	ヒヨクモチ(白石町) ※トリフルメゾピリム
6月上旬播種	6	1	10	5	2	0	ヒヨクモチ(直播) 防除済(7/20、7/28)

3) コブノメイガ

- ・今年、6月10～15日頃、18日頃、25日～28日頃及び7月6～11日頃に飛来があった。

本年は、断続的に飛来がみられたことから、飛来波ごとの幼虫の出現時期は異なると予想される。

このため、1回の散布で全ての飛来波のコブノメイガを完全に防除することは困難であるが、トビイロウンカの発生状況も考慮して効率的かつ効果的な防除ができる時期に実施する。

- ・葉色が濃い圃場においてコブノメイガの食害が散見される。
- ・コブノメイガの防除適期は、発蛾最盛期の7日後



コブノメイガによる食害

(幼虫ふ化揃い期)である。

被害葉が多くみられる圃場では、蛾の発生状況に応じて臨機防除を行う。

4) 斑点米カメムシ

- ・山間早植えはまもなく出穂期を迎えることから、斑点米カメムシ類を中心とした乳熟期（穂揃い後10日目頃）の防除を徹底して、斑点米カメムシの被害防止を図る。
- ・出穂10日前までの畦畔除草は、耕種的防除の観点から効果的であるので実施する。

カメムシはイネ科雑草を好むことから畦畔だけでなく圃場内に発生している雑草の除草も併せて行うよう努める。

畦畔を100mあたり歩いてカメムシが3頭いたら、要注意である。

エノコログサやヒエが多発している畦畔はカメムシの住処となっている



5) 紋枯病

・幼穂形成期以降は、各品種とも病気に対する抵抗力が弱まり、今後気温が高くなることから、紋枯病が一気に進展する可能性があるため発生には十分注意する。

・本病が発生している圃場では、病斑が上位葉の葉鞘に進展する前に防除を行う。

(液剤、粉剤の場合は出穂10日～20日前の防除を目安とする)



紋枯病

4. 大豆作情報 (今後の管理)

・7月の連続降雨により今年の播種盛期は、大きくわけると7月18日～7月21日及び7月30日～8月5日となる。

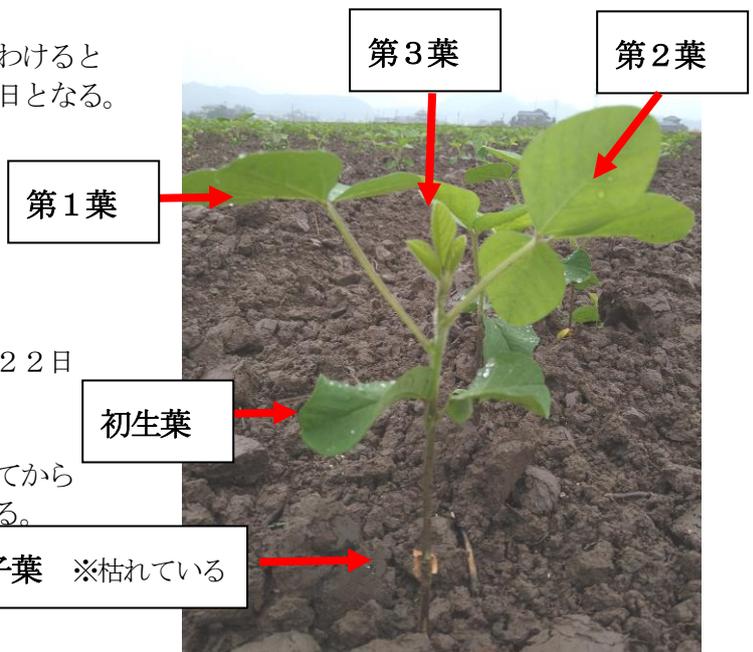
現在、生育状況は以下のとおりである

- ①7月18日～21日：本葉2葉～3葉期
- ②7月30日～：播種から出芽

・右の写真は、7月18日播種された大豆である。(本葉 第3葉目が出ている)

なお、7月18日播種された圃場では出芽は7月22日となった。

- ・「フクユタカ」は、初生葉(最初に出る双葉)が出てから本葉4葉くらいまでは4日に1枚程度で出葉する。その後、2～3日の間隔で出葉し、7～12葉で開花期となる。



(1) 中耕・培土

①中耕・培土には様々な効果があり、積極的に収量を上げるための重要な作業である。

中耕・培土の主な効果

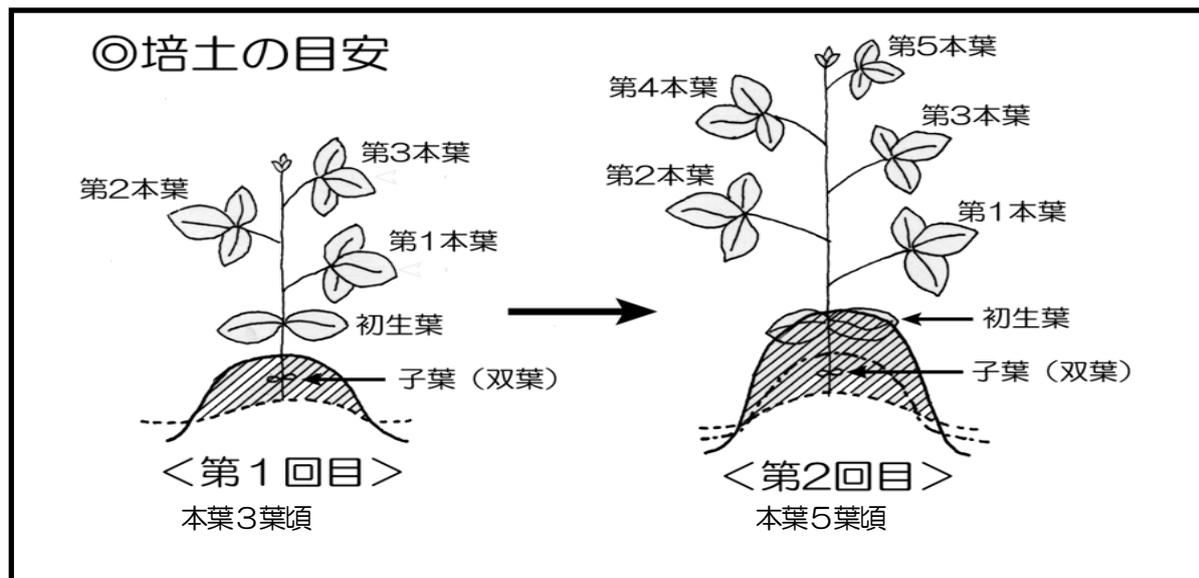
- 培土部分からの不定根の発生を促進し、養水分の吸収をよくする。
- 株元に土を寄せて、倒伏を防止する
- 土壌を膨軟にし、通気性を改善する
- 土壌を攪拌し、雑草の発生を抑える
(雑草を防除する)
- 畦が作られ、排水性が向上する
(表面排水を促進し湿害を受けにくくする)

- 1回目(本葉2~3葉期) …生育初期の雑草防除、土壌中への酸素供給。
- 2回目(本葉4~5葉期) …除草効果+土壌通気性向上
+新根発生促進 +倒伏防止。

※ 培土は開花1週間前までに終了すること!

②7月25日以降の遅まき圃場では中耕深を深めにし、コンバイン収穫時のロスを少なくするために培土の高さは子葉節までと、やや低めにする。

③開花後の中耕は断根による悪影響が大きくなるので開花前に終わる。



2) 雑草対策

本年は、播種後の土壌処理剤が降雨のため、散布されていない圃場や効果の低下した圃場が見られます。

- イネ科雑草が多いところでは、ナブ乳剤(イネ科雑草3~8葉期まで)、ポルトフロアブル(イネ科雑草3~10葉期まで)で防除する。なお、大豆バサグランとナブ乳剤の混用は薬害を助長するので避ける。
- アサガオ類が発生している圃場が散見されるので、圃場内はもとより、まくら地や畦畔で発生している場合も、必ず抜き取るか薬剤散布での防除を徹底する。

※出来るだけアサガオの本葉2~3葉までに処理する。ただしアサガオの種類によっては効果が劣る場合もある。

→アサガオ類は、繁殖力が強いことからそのまま放置すると次年度以降、さらに発生量が多くなるので、初発での薬剤防除を徹底する。

- また、近年ホオズギ類の発生も増加しています。アサガオ類同様、難防除雑草であるため徹底した抜き

取り、薬剤散布を行ってください。

※ 除草剤を散布する際は、周りの水稻にかからないよう注意し、無風時に処理する。

【除草剤一覧】

	散布方法	薬量	アサガオ		ホオズキ	ヒユ	イネ科	その他広葉	備考
大豆 バサグラン	全面	100～ 150ml/10a	△		△	△	×	△～○	だいたいの2葉期～開花前 (雑草生育初期～6葉期) ただし収穫45日前まで ※大豆の品種によっては薬害を生じるので指導機関に確認すること
	畦間	300～ 500ml/10a	△		△～ ○	△～ ○	×	○	だいたいの生育期 (雑草生育初期～6葉期) ただし収穫45日前まで ※大豆の品種によっては薬害を生じるので指導機関に確認すること
バスタ液剤	畦間	300～ 500ml/10a	○		○	○	○	○	収穫28日前まで (雑草生育初期)
ポルト フロアブル	全面	200～ 300ml/10a	×		×	×	○～◎	×	雑草生育初期 (イネ科雑草3～10葉期) ただし収穫30日前まで
アタック ショット	全面	30～ 50ml/10a	○ つる化前	△ つる化後	○	○	×	△～○	薬害あり だいたいの2葉期～開花前 (雑草生育期) ただし収穫45日前まで

※農薬登録は、随時変更等がありますので、必ず最新の『農薬登録情報（農林水産消費安全技術センターHP：
<http://www.acis.famic.go.jp>）』を確認してください。